

# 居住環境学専攻の教育の特色

## 1. 他大学の「建築学科」と異なる内容

### ◎ 自然学を学んだ上で、建築学を学ぶカリキュラム

本専攻は、**自然環境と共生した居住環境の創造**を目指しています。それにはまず、自然学の学習が重要です。そこで、学部共通科目の「エコシステムを考える」「環境は資源」「地球環境科学」「基礎生態学」「水環境管理学」の他、生態・環境資源学専攻の専門科目の「森林生態学」「海洋生態学」「海洋資源学」などを選択できるようにしています。これにより、**自然環境への認識を深めながら、居住環境のあり方を考えることができます。**

### ◎ 木と福祉の文化を学ぶ

自然と人にやさしい木の文化と利用を重視しています。特に、従来の建築学科にはない科目「木質構造学」を設け、木の利点と活用を考えています。また、「福祉住環境計画学」などの科目を設け、福祉の観点からも共生社会を考えた居住環境のあり方を追求しています。

## 2. 実体験を重視した教育

### ◎ 実験・演習・実習といった「体験教育」の重視

### ◎ フィールドワークの実施（1年次）

### ◎ 建築・都市見学研修旅行の実施（2年次）

講義で得た知識を確認し、自ら考える力を高めるための**実験・演習・実習**を数多く設けています。更に、**1年次ではフィールドワークを、2年次では建築・都市見学研修旅行を実施**して、学外で学ぶ機会も設けています。

## 3. 高度で充実した設備・装置

### ◎ 高度な木質構造に関する実験装置を備えた実験棟

### ◎ 任意の温度・湿度を設定・制御し、様々な実験ができる人工気候室

### ◎ 衛星写真や航空写真から住宅地図までを扱える環境画像システム室

### ◎ 各学年（2～4年次）専用の製図室に、ひとり1台の製図台

### ◎ 先端設備を導入した専攻専用のPC室で行われる、充実したCAD教育

従来の建築学科にはない独自の教育を進めるため、高水準の機器・設備を導入しています。学生は**1年次から、他大学の大学院生が用いるような設備を利用して教育**を受けています。

## 4. 少人数教育とユニークな科目構成

### ◎ 少人数（1学年約40名）での、きめ細やかな教育

1学年約40名の学生一人一人の「顔」をみて、それぞれの個性に合わせた教育を行っています。特に、数多く設けられた**実験・演習・実習**で効果をあげています。

### ◎ 目標とする進路に合わせて選択可能な、多様な履修モデル

「一級建築士の受験資格」を目指す履修モデルから、「環境計画コンサルタント」「構造設計」「設備設計」、更には「行政機関」へ進むための履修モデルまで、**各人の適性と志望に応じた選択ができる科目構成**をとっています。また、大学院博士前期課程（修士）・後期課程（博士）へ進学し、専門性を深めることもできます。

## 5. 建築士の受験資格

他大学の建築学科と同様に、**卒業後2年間の実務経験を経て、一級建築士の受験資格を得る**ことができます。また、**卒業後実務経験なしで、二級建築士の受験**ができます。

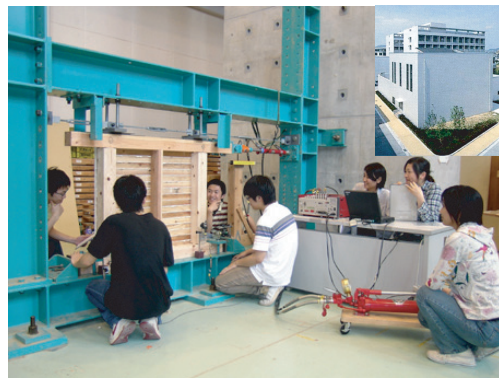


写真1 構造実験棟（右上）での実験風景



写真2 人工気候室内観（左）、外観（右）



写真3 製図室での製図風景（左）、車椅子実習風景（右）



写真4 環境画像システム室（上）専攻専用PC室でのCAD実習風景（下）

公立大学法人 熊本県立大学  
環境共生学部  
居住環境学専攻

〒862-8502  
熊本県熊本市月出3丁目1番100号  
代表電話：096-383-2929  
FAX：096-384-6765

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

公立大学法人 熊本県立大学

環境共生学部

# 居住環境学専攻

平成11年4月に創設された環境共生学部は、環境共生型社会の創造を目指し、従来の学問分野の枠組みを超えて「**理工農医を総合した新しい自然科学系学部**」です。

## 学部の理念

私達は環境共生に関わる諸問題を総合的に捉え、「**自然環境と人間活動とのあり方を追求**」し、「**地域の発展と人間福祉の向上を目指す**」ことを理念としています。

この理念のもと、環境共生学部、同大学院博士前期課程・後期課程を開設し、教育・研究を推進しています。

## 居住環境学専攻の理念

### 「建築・地域 + エコロジー = 居住環境学」

都心では、“まち”が“暮らし”や文化と共に壊され、大規模な建築物が次々と建てられ、空調や照明に膨大なエネルギーが消費されています。道路には車があふれ、石油が燃やされ排気ガスが大量に吐き出されています。

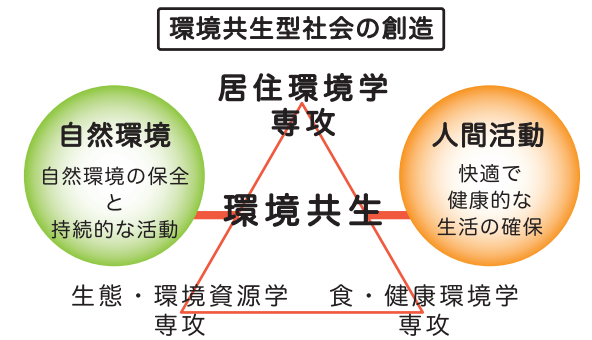
地方の“まち”や農山村では、人口が減り高齢化が進む中、活力を失い、大型ショッピングセンターに代表される自家用車依存型の都市開発などの影響もあり、地域全体が壊れ兼ねない状態が拡がりつつあります。

そして、日本の環境にとってかけがえのない農地や山林が、荒廃しています。本当にこんなことを続けていてよいのでしょうか？

こんな問題意識を持って、建築学を教育・研究してきた専門家を糾合して、居住環境学専攻は創設されました。

本専攻では、「**地域に密着した題材を通して、従来の建築学科の枠を超える教育・研究**」を行っています。

近年の社会の流れを根本から転換し、人と自然、さまざまな人々が共に生き続ける社会＝環境共生型社会を目指す熱い心を持ち、地域文化や気候風土に根差した“すまい”・建築・都市・農山村などの「**環境共生型居住環境を保全・創造する知識、能力、技術を豊富に持った人材育成**」を目指しています。



- ・ 図面や絵、デザインが好き
  - ・ 地震に強くて美しい木造建築をつくってみたい
  - ・ 自然を利用し、人の心と体にやさしい環境をつくる技術を開発したい
  - ・ 多くの人が住み、“にぎわい”と“楽しさ”あふれる“まち”をつくりたい
  - ・ バリアフリーの建築・まちづくりをめざしたい
  - ・ さまざまな“すまい”の歴史と未来に興味がある
  - ・ 美しい農山村の風景を未来に残したい…
- そして人に興味を持ち、どこにでも行って何でも見てやろう！
- そんな意欲を持った皆さんを大いに歓迎します。

